

第 4 回日米実務者会議議事要旨

1. 開催日：平成 20 年 2 月 14～2 月 15 日
2. 開催場所：サンフランシスコ環境保護庁地域オフィス (U.S. Environmental Protection Agency Region 9 offices, 75 Hawthorne Street San Francisco, CA)
3. 出席者
米国側：レスリー・トゥアート（米国環境保護庁）他 6 名
日本側：井口泰泉（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）他 5 名
環境省：高岡志帆（環境省環境保健部環境安全課）

敬称略

4. 議事要旨
 - ・ 試験法開発でのこれまでの研究成果と取組みの概要について、日本側（井口泰泉）、米国側（レスリー・トゥアート）より説明がなされた。
 - ・ 魚類、両性類、甲殻類での研究成果について、日米の各研究者より報告がなされ、質疑応答が行われた。日本からは 17 β -エストラジオールを用いた魚類二世世代繁殖試験結果が報告された。
 - ・ 試験生物ごとに、現状の課題について質疑応答が行われた。また、現状の課題を踏まえ、今後検討する事項や試験を実施する物質などについて質疑応答が行なわれた。
 - ・ 今後の日米実務者会議の取組方針として、魚類では、二世世代繁殖試験を用いた母体内化学物質移行による次世代への影響評価の検証と日米で可能な限り広範囲にデータを収集し、プロトコールを簡素化していくことなどが確認された。
 - ・ 両性類では、長期生殖試験を日米で開始すること、米国側は性分化関連遺伝子の情報を日本に情報提供することなどが確認された。
 - ・ 甲殻類では、成 20 年 12 月に東京で開催される会議にアミ、コペポッド、オオミジンコの最新データを持ち寄ることなどが確認された。
 - ・ 次回会議より、分子生物学的ツール用いた研究成果の報告と情報交換を進めていくことが確認された。